

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回 建築・インテリア系教育課程編成委員会
開 催 日 時	平成 27 年 11 月 20 日 (金) 15 時 30 分～17 時 30 分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール、11 階 1101 教室
参 加 者	外部委員：5 名
	内部委員・学内関係者：5 名
	<p><外部委員：6 名> (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照)</p> <p>大塚雄二 (社団法人建築家協会 大塚雄二都市建築設計事務所)</p> <p>樋口修 (東京商工会議所中野支部/株式会社ヒグチ設計)</p> <p>北川辰雄 (清水建設株式会社)</p> <p>中山聡 (前田建設工業株式会社)</p> <p>可児才介 (可児アトリエ)</p> <p>霜野隆 (インテリアプランナー協会会長 株式会社レスト マムハウス事業部部長)</p> <p><内部委員：4 名></p> <p>三上孝明 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長)</p> <p>白井雅哲 (同 企画部部長兼インテリア科 科長)</p> <p>野上和弘 (同 建築科科長、議長)</p> <p>高山寿一郎 (同 インテリア科科長)</p> <p>鈴木昇 (同 建築科夜間(建築士専科)科長、書記)</p>
会 議 録	<p><第一部 系別分科会> 15:30～16:00 B1F テラホール</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学園側関係者挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ校長 三上孝明 2. 委員のご紹介 3. 前回会議 (合同会議) 議事録確認 4. 平成 25 年度自己点検評価報告書の概要説明 5. 平成 26 年事業計画概要と取組み内容の説明 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度学園組織変更・人事異動報告 ・職業実践専門課程「建築科夜間課程」認定報告 ・環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業、選択報告 ・教育訓練給付金制度 (専門実践教育訓練) 調査票、提出報告 ・リアルジョブプロジェクト、進捗報告 <p><第二部 系別分科会></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 議長挨拶 (野上) 2. 校長挨拶 (三上) 3. 委員のご紹介 4. 前回 (系別分科会) 議事録の確認 (野上) <p>RJP を評価いただいた中山様のご意見を前回議事録に追記させていただきました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 意見交換と回 答 <ul style="list-style-type: none"> ・今回は、インテリア科の実習授業についてご意見をいただきたい。(野上) ・高山よりインテリア科のコアカリキュラムを説明させていただいた。 <p>以下いただきましたご意見。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品集の内容が充実していると感じるが、設計課題内容は具体的にどのように設定しているのか。(中山) ・居住する家族構成については条件を与えているが、敷地については各自で設定させている。(高山) ・実務でのコンペでは発注者の意見を読みとり提案するが、授業の中でも課題に対して各自が積極的にアイデアを提案できるようにさせることが、卒業後の仕事で役にたつと考える。また評価する教員側の姿勢も重要だと考える。(中山)

- ・デザインだけでなくコストについても考えるよう、仕事に対する意識を高められるようにしてほしい。(中山)
- ・説明のあったインテリア科の設計課題（1年次入学後最初の課題）には現実性が欠けるのではないか(大塚)。
- ・企業の意見を聞いて取り組んでいるインテリア科と建築科の設計課題の違いはどこに置いているのか。(大塚)

- ・当校ではエレメントを学びショールームで確認するとうカリキュラムに特徴を出している。(三上)

- ・インテリアコーディネーター、建築士を目標にしているが、次年度からは新制度となるインテリアプランナー（受験要件が変わり誰でも受験できるようになる）も入れていただきたい。(霜野)
- ・建築士は学科免除、インテリアコーディネーターの方も受験しやすくなる。現状の社会的なニーズからするとインテリアプランナーも目指してほしい。(霜野)
- ・現在ショールームを26カ所以上見ているが、保育園や幼稚園、デイケア等の施設も入れてはどうか。また課題内容に家族構成として高齢者についての条件なども入れてはどうか。H22年すべての建築に省エネが求められるので省エネについても課題に入れてはどうか。(霜野)

- ・26カ所については座学の後に実物を見にいっています。(高山)

- ・ショールームで見たものが実際にどのように使われているか、施設を見に行くことで具体的に理解できると思う。(霜野)

- ・建築科では幼稚園や高齢者福祉施設の見学に行っている。(野上)

- ・建築はハード側だがインテリアではソフト（安心、安全、避難、高齢者対応など）にからめて考えるようになってほしい。(霜野)
- ・インテリアのエレメントに使用により、エネルギー、省エネについても数値化できるので、課題の中で具体的な内容が経験できるのではないか。(霜野)

- ・その中で社会が求める人材目標はどうなるのか。大学と比較して2年過程でどこまでできるのか。(三上)

- ・学生として経験できることが将来役に立つと考える。(霜野)

- ・経験から照明計画くらいできるようにしたい(白井)

- ・6年かける大学の建築教育との違いについては、評価側も大学との違いについて意識しないといけないと考える。(可児)

- ・リフォームに興味をもつ学生がいるのでカリキュラム化したいと考える(高山)

- ・2年間のカリキュラムでどのように課題を充実させられるかご意見いただきたい。(高山)
- ・先程のように設計課題の中に高齢者や省エネについても盛り込んでどうか。(霜野)

- ・学生側にはできる学生とできない学生がおり、できる学生は自主的に作品作りができるが、できない学生には時間をかけて細かな指導が必要になる。(高山)
- ・大学と専門学校の人材目標をどこにおくのか。文科省には職業大学校という枠ができつつあるが。専門学校の特徴を出さないと生き残れない。(白井)
- ・文科省自体が、専門学校に対する認識が低いのではないか(霜野)
- ・専門学校のイメージは、一部に特化した学生ととらえている、大卒の学生は卒業後3年間

かけて育てるイメージがある。(北川)

例えば施工図系として

- ・専門学校と大学卒では企業での待遇は変わるのか。(霜野)
- ・前田建設では違いはない(中山)。高専卒の社員は目標を具体的に設定して仕事に取り組んでいる。(中山)
- ・大成建設では大卒でないと総合職になれない。(可児) 出世はできない。
- ・実務を経験した教員が学生に実務の厳しさを教えてほしい。(中山)
- ・仕事に対する忍耐を教え込んでいただきたい。(北川)
- ・建築に愛情を持っているかどうか重要。建築に愛情を持たせる教育をしてほしい。オリンピック競技場、ロゴ、杭の問題についても、学校の中でも考えてほしい。将来的なコンプライアンスについての意識も高めてほしい。デザインとは問題をどのように解決していくかが重要なので、そのような課題をだしたらよいのでは。(大塚)
- ・インテリアは室内だけでなく外部空間についても考えてみてはどうか。中野駅の再開発を明治大学の小林先生を中心に実施している、また中野駅の南口の再開発を行っているが、建築の学生も関わってはどうか。(樋口)
- ・大学との違いをどうするのか、という点にはついて今後ともご意見をいただきたい。専門学校の役割について考えていきたい。(白井)
- ・例えば、密度を上げて範囲を狭めて教育してはどうか。住宅、施工図とかの密度の濃さを高めるという手はあるのでは。(可児)

本年度は3回の建築・インテリア系教育課程編成委員会を開催予定とし、3回目には各科学士の優秀作品をご覧いただき、教育成果をご覧いただく予定であることを説明。

6. 次回日程について(議長)

・平成28年3月18日(木) 15時30分～17時30分

卒業研究・制作発表会

(第3回学校関係者委員会および教育課程編成委員会を兼ねる)

7. 閉式の辞(議長)

以上